

「第13回シーフードショー大阪」で人工タイラギの生産技術をPR！

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 松山, 幸彦
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008528

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



「第13回シーフードショー大阪」で 人工タイラギの生産技術をPR！

有明海・八代海漁場環境研究センター 資源培養グループ 松山 幸彦

2016年2月18～19日の2日間、大阪市のアジア太平洋トレードセンター内にあるATCホールにおいて、大日本水産会主催の「第13回シーフードショー大阪」が開催され、中野昌次主任研究員とともに参加しました。

「シーフードショー大阪」は、食文化の都・大阪、そして和食の本場・京都、奈良を抱える関西地区において、魚介類等、水産商材を取り扱う方々とバイヤーとの商談会を通じ、魚食普及、消費拡大並びに水産物の輸出拡大を目指した西日本最大級の食材見本市です。会場には新商品などを抱えて駆けつけた生産者、それらを宣伝する自治体や漁業協同組合職員及び試験研究機関などによるブースがひしめいていました。主催者情報によれば、この2日間の公式登録総来場者数は15,000名を突破したとのことでした。

水産総合研究センターも例年、シーフードショーへの出展を行っています。今回は、瀬戸内海区水産研究所と西海区水産研究所が共同で取り組んでいるタイラギ人工種苗生産と垂下養殖技術の最新の成果について出展することとなりました。

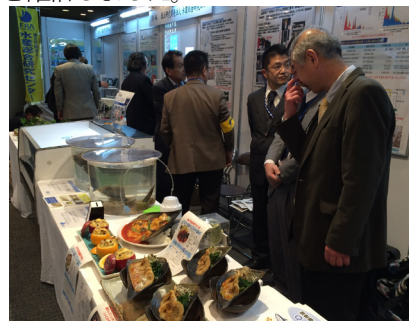
タイラギは、大きなもので殻長30cmを超える巨大な二枚貝で、干潟から水深20m程度の砂泥域に生息しています。貝柱も大きく、美味であり、ホタテガイとは異なる歯応えと風味のため、高級食材として取引されています。また、貝柱だけでなく、外套膜、足、小柱（タイラギの貝柱は2つあり、片方が巨大化している）などは通称「ピラ」として流通していて、可食部の多い食材でもあります。

有明海において、タイラギは潜水器漁業の主要漁獲対象種で、最盛期の漁獲量は2万トンを超えていました。同海域の特産種として商品価値も高いことから、タイラギ潜水器漁業は、長い間、この海域における漁船漁業者の所得を支える基幹漁業であり続けてきました。潮流が速く濁りの多い有明海では、潜水器漁業は危険な重労働であり、まさに体を張って行われる有明海の代表的な漁業です。しかし、1990年代よりタイラギ資源量の減少が顕在化し、立ち枯れへい死や着底稚貝発生量の落ち込みなどが顕著となりました。このため、2013年以降は潜水器漁業が操業停止状態に追い込まれているのが現状です。

西海区水産研究所では、2006年からタイラギの垂下養殖技術開発を行うため、田崎真珠株式会社、長崎県総合水産試験場及び小長井町漁業協同組合の協力を得ながら、タイラギ天然稚貝を活用した垂下養殖技術の開発に取り組んできました。その後、水産庁事業等も活用しつつ、

稚貝を親貝まで育成するために必要な飼育方法や資材の開発を行ってきました。平成26年度からは、水産庁委託事業「二枚貝資源緊急増殖対策事業」を受託し、天然稚貝に頼らない、人工種苗生産による人工稚貝を用いた育成技術開発に取り組んでいるところです。その結果、平成26年度に28万個の着底稚貝を生産することに成功しました。得られた稚貝は順調に育成し、食用サイズである15cmを上回るサイズに成長してきたことから、その成果を展示することとなりました。会場には16cmを超えた人工稚貝を生きたままの状態を持ち込み、水槽での展示も行いました。

2日目には、同会場において「大型二枚貝タイラギの人工種苗生産および垂下養殖技術の開発」と題したセミナーを開催しました。本セミナーでは、水産総合研究センターで革新的改良が達成されつつある「タイラギ人工種苗生産技術」及び「垂下養殖技術」による新たな養殖産業創出の可能性を紹介しました。セミナーは2部構成とし、前半の人工種苗生産技術については瀬戸内海区水産研究所海産無脊椎動物研究センターの兼松正衛貝類グループ長が、後半の垂下養殖技術については小職が、それぞれ発表を行いました。両セミナーの間、会場は関係者で満席となり、また、セミナー終了後も、漁業者団体や大学研究者からの質問が集中するなど好評でした。試食食材の調理人からも「魅力的な食材である」とのコメントが飛び出すなど、新規養殖対象種としてのタイラギへ熱い視線が送られ、きわめて貴重な技術広報の機会になったものと確信しました。



水産総合研究センターの展示ブースの様子

発行：国立研究開発法人水産総合研究センター
編集：国立研究開発法人水産総合研究センター
西海区水産研究所
〒851-2213 長崎県長崎市多良良町1551-8
TEL 095-860-1600 FAX 095-850-7767
ホームページアドレス <http://snf.fra.affrc.go.jp>
本誌掲載の文章・画像等の無断転載を禁じます。